



令和6年2月6日  
海上保安庁

## 日本提案の海底地形名が国際会議で承認

国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）が共同で設置する「海底地形名小委員会（SCUFN）」において、我が国が提案した海底地形名 11 件（伊豆・小笠原弧中部）が承認されました。

また、同委員会の議長として、我が国の小原委員が選出されました。

- 1 海底地形名小委員会（SCUFN）<sup>（※<sup>1</sup>）</sup>が、令和5年11月6日～10日（ウーロンゴン（豪州））にて開催され、令和6年2月5日に審議の結果が公表されました。

今次会議において、我が国が提案した海底地形名 11 件が承認されました。

承認された名称は、伊豆・小笠原弧中部の海底地形に付けられたもので、我が国の元号等に因んでいます（別紙参照）。

これらの海底地形名は、IHO/IOC 海底地形名集<sup>（※<sup>2</sup>）</sup>に掲載されることで世界中に周知され、今後、地図・海図や論文などに使われることとなります。

- 2 同会議において、任期満了に伴う SCUFN 議長選挙が行われ、投票の結果、我が国の小原委員（海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室長）が SCUFN 議長に選出されました。我が国委員が SCUFN 議長に選出されたのは初めてです。小原委員は、SCUFN 議長就任に当たり次の通りコメントしております。

### 【小原委員のコメント】

今回、議長に選出されたことは大変光栄。日本国及び海上保安庁のこれまでの貢献が関係者に高く評価されたものと思料。議長就任に当たっては、一海洋科学者として、公平公正な審議を行い、ますます海洋科学の発展に貢献してまいりたい。

## ※1 海底地形名小委員会 (SCUFN)

海底地形名小委員会 (SCUFN) は、地図・海図や論文等に使われる世界の海底地形名を標準化するための学術的な委員会です。委員会は、12名の専門家で構成され、海底地形名の審査を行っています。

また、海底地形には、原則として、近傍地名、船名、海洋に貢献した故人名・機関名等に因んだ名称を付けることになっています。

なお、我が国では、地形学、地質学、歴史学等の有識者で構成される「海底地形の名称に関する検討会」における検討を経て提案を行っています。

## ※2 IHO/IOC 海底地形名集

IHO/IOC 海底地形名集は、SCUFN で承認された海底地形名等の国際的に標準化された地形名が付与された海底地形情報が登録されています。

IHO/IOC 海底地形名集は、下記 URL からご確認いただけます。

[https://www.gebco.net/data\\_and\\_products/undersea\\_feature\\_names/](https://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/)

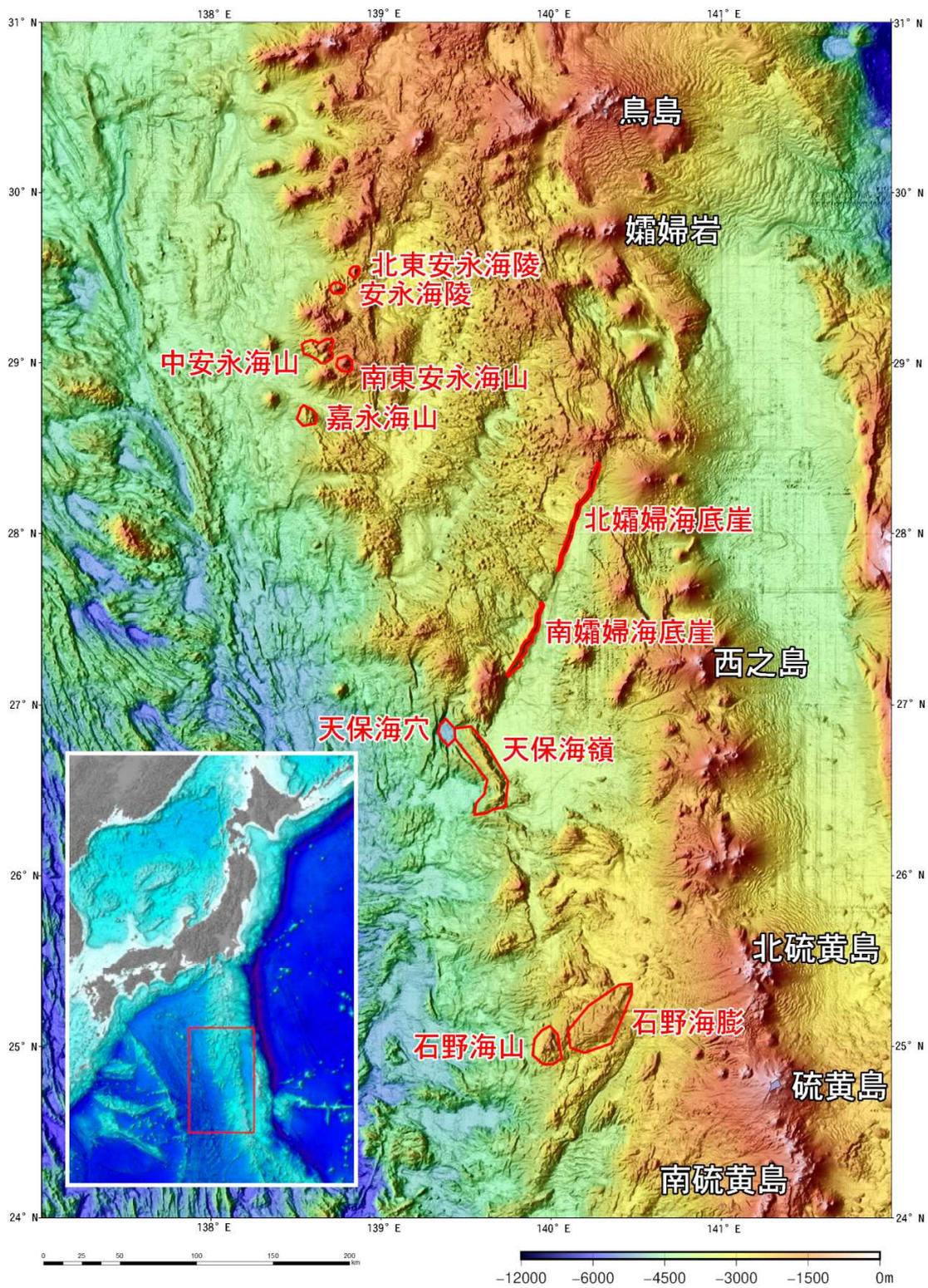


図:我が国が提案した海底地形名 11 件

## 【参考】

### 海底地形名の由来

#### (1) 元号

この付近は江戸時代の元号に因んで命名された海山の集合体である元号海山列にあたり、命名された<sup>あんえいかいりょう</sup>安永海陵、<sup>ほくとうあんえいかいりょう</sup>北東安永海陵、<sup>なかあんえいかいざん</sup>中安永海山、<sup>なんとうあんえいかいざん</sup>南東安永海山、<sup>か</sup>嘉永海山、<sup>えいかいざん</sup>天保海嶺、<sup>てんぼうかいけつ</sup>天保海穴については、安永、嘉永、天保の元号に由来しており、<sup>かえいかいざん</sup>嘉永海山は今回新たに、またそれ以外の海底地形は、それらが命名された海山の近傍にあることから命名されました。

#### (2) 近隣地名

<sup>いしのかいざん</sup>石野海山及び<sup>いしのかいぼう</sup>石野海膨については、かつて北硫黄島にあった旧石野村に因んで命名されました。

#### (3) 論文

<sup>きたそうふかいていがい</sup>北孀婦海底崖及び<sup>みなみそうふかいていがい</sup>南孀婦海底崖は、論文等で使用されている<sup>そうふがん</sup>孀婦岩構造線に因んで命名されました。